



AIはどのような時代をもたらすのか？ — 価値理論と近代化論から考える

講師：柴田 悠 氏（京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授）

日時：2018年6月13日（水） 13:30～15:00

会場：先端社会研究所セミナールーム（西宮上ヶ原キャンパス 社会学部棟3F）

本講演では、AI（人工知能）が社会にもたらす総体的な影響を、価値理論と近代化論の観点から考察する。リースマンの価値理論をヒントにしなが、ギデنزの近代化論を再考する。後者の近代化論では、人々の「専門家システム（技術成果と専門知識）への信頼」は、近代社会の基盤であり、「アクセス・ポイント」（代理者との接点）の経験によって支えられているとされる。しかし深層学習型AIは、その設計者にさえ「リアルタイムの学習過程（特徴量の定義）」が不可知であるため、代理者がおらず、アクセス・ポイントが成立しない。このことは近代社会に根本的な変質をもたらすが、それがどのような変質なのかを「資本主義と不可知性」の観点から考察する。